

予防策は？ 国立病院機構九州医療センター・柏木征三郎名誉院長に聞く

◆うがい・手洗い大切 抗体マスクも有効



柏木名誉院長

今回の新型インフルエンザの症状は一般的には通常のインフルエンザと変わらないか、むしろ軽い。感染力は強いが毒力は強くない。

ただし、インフルエンザの新型は、ほとんどの人が免疫を持たないため、大流行が起きる恐れがある。特に乳幼児や高齢者、病気が人がかかれば重症になる。大きな心配はしなくていいが、侮るなかれ、ということだ。

治療薬のタミフルやリレンザが有効だ。病院で処方してもらえるので、早期診断、早期治療が重要になる。人にうつす恐れもあるので、異常を感じたら相談窓口で電話し、指示を仰いでほしい。

予防には、マスクの着用と、うがい、手洗いの励行が大事。マスクを使う場合、表面に付いたウイルスが手に付いて、そこから体内に入る恐れがあるので毎日替えた方がいい。通常のマスクでも良いが、「抗体マスク」はより効果が大きい。

九州・山口は、大流行が起きて外国との行き来が制限される事態になった時でも、福岡空港と関門港が集約港として開いている。その意味でも十分に注意が必要だ。

(2009年4月30日 読売新聞)